

NPO法人 自立支援事業所 サンレジデンス

SUN通信 第5号

2017. 6. 16 発行

NPO法人 自立支援事業所
サンレジデンス

〒011-0023

札幌市北区北23条西5丁目

1-18 Dio23ビル3F

TEL 011-746-8889

FAX 011-299-3107

困窮者支援活動とは何か

NPO法人 サンレジデンス内での出来事や、催し物の様子を紹介する記事として発行を始めたこのSUN通信も、今回が第5号となりました。株式会社アパートナーの社会貢献部門として活動を続けるサンレジデンスとは具体的にどんなことをしているのか、ここで今一度皆様にお伝えしようと思います。

長い間路上生活をしている。会社の寮に住んでいたが、解雇されたため明日からは住む場所が無くなる。ネットカフェに寝泊りしながら日雇いの仕事をしているが体力の限界。身内とは完全に絶縁状態で頼ることが出来ない等々、本当に理由は様々ですが、どうすることも出来ずに苦しんでいる人たちからのSOSが毎日のように飛び込んできます。

また、刑務所で服役中の受刑者からは、帰住する場所が無く、出所後の生活についての不安を切々と綴った手紙も頻繁に届きます。再犯率の高さが問題になっている社会において、その要因の最大の元はここにあると言っても過言ではないでしょう。

一度躓いたら、立ち直りの機会すら与えられない、そんな社会が続けば、いったいこの先、この国はどうなってしまうのか、恐怖にも似た感情がこみ上げて来ます。

私たちは、(株)アパートナー札幌支店より、NPO法人 サンレジデンスとして空室を借り上げ、真剣に再スタートを願う人たちの生活の拠点として利用して頂いています。民間の企業とNPOがタッグを組んで、困窮者支援という活動を展開している組織は、全国でもなかなか見当たらないのではないのでしょうか。

安心な生活基盤をいち早く提供すること、そこで当事者にははじめて社会復帰への道筋



刑務所からの手紙 切なる思いが・・・

が見えてきます。そして、当事者が健全な自立生活に戻ったとき、私たちと当事者双方の存在が社会貢献に繋がって行く、これこそが私たちの在り方であり、目的でもあります。

大切なのは己を知ること

だけど、誰でも入居してもらおうわけではありません。私は、相談に訪れた当事者と最初の面談を行うとき、この人をサンレジデンスは受け止めきれぬのか、この人にとってサンレジデンスは最適かということ、を、まず考えます。時々、面談をしていて、自立の意思が全く感じられない相談者がいます。そんな人には、はっきりと入居をお断りしています。何故なら、その人は今住む場所が無いという現実があるかもしれませんが、本当に「困っている」とは思えないからです。自分の人生を真剣に考える気のない人には、どんな手厚い支援も時間の無駄です。



街角に座り込む路上生活者（札幌市内）

ですから、入居してもらった人になった人には、面談の最後に「あなたが社会復帰するための環境作りを、私たちはお手伝いすることが出来ます。ただ私たちに来るのはそこまでです。自立するには、その後のあなたの意志の強さと努力次第です」と、私はあえて伝えるようにしています。

以前、ある他団体の支援者から、受け入れを拒否するのはおかしいという趣旨のことを言われました。色々な考え方があるとは思いますが、私から言わせれば、この支援者は真摯ではないし、明らかに勘違いをしています。相談があれば全てを受け入れる、そんな事を出来るわけがないのです。

私たちは万能ではありませんし、なにか特別な能力を持っているわけでもありません。重度の障害、統合失調症、薬物中毒・・・残念ながら私たちでは受け止め切れません。また前述したとおり、自分のやり直しに本気になれない人の人格を直すというおこがましいものでもありません。この活動に限らず、どんな組織にも言えることですが、能力の範疇に納まりきらない事柄を、何の準備も無いまま推し進めようとするれば、やがて疲弊していくのは目に見えています。どんな人でも入居させて、毎月家賃を貰えばいいという活動ではないということは言うまでもありません。

私たちが与えられた環境でこそ提供できる支援。それが立ち直りを決意した人の社会復帰に「機能」すること。極論を言えば、その一点こそが、サンレジデンスが社会に存在する意味だと、私は思っています。

今だからこそ 初心に戻って

サンレジデンスが設立された当初の目的は、高齢者の住宅・生活支援にありました。その後、他支援団体からの問い合わせや相談が相次ぎ、徐々に困窮者支援活動へとシフトしていき、現在では常時、およそ100名前後の方々が入居されるまでに至りました。ホームレスになる恐れのある人たちからの相談が途切れることのない現状の中、そうした人たちの自立支援活動が、SUN第1事業として私たちの業務の柱となっています。しかし、当初の目的を忘れてしまったわけではありません。

家族や親族を含む他者との関係の希薄さが、困窮に陥る要因の一つです。その一方で、家族との関係が繋がっていたとしても、その家族自体が困窮し、当事者を支えきれないという現実が、いまこの国で急速に広がっている気がしてなりません。そしてこの現実、国全体が直面している大きな社会問題にも直結します。それは、超高齢化社会の中で急増している「貧困に喘ぐ独居高齢者」の存在です。これは今に始まったことではなく、もう随分と前から言われ続けている問題です。

困窮者支援を行う上で、やはり私たちはこの問題を避けて通ることは出来ません。金銭面はもちろん、病気や怪我等で不安な毎日を送っているが、身寄りが無いため相談することも出来ず、仕方なく我慢している。そんな人たちの不安を少しでも解消し、一人ではない安心な毎日を提供できないか、サンレジデンスは今こそ設立時の初心に戻り、この問題に正面から向き合わなければなりません。

そこで、職員が常駐し、一定程度の生活サポートをさせてもらうことにより、単身生活に不安を抱えている高齢者が孤立することなく、充実した日々を送れる住宅作りをコンセプトに、昨年5月、その第1号棟となるSUN南郷5の稼働を始めたのです。私たちはこれを第2事業として位置付けることにしました。

ただひとつ、私たちが懸念していたことがありました。言い方が不適切かもしれませんが、苦しんでいる独居高齢者をどのようにして「見つけられるか」ということです。



SUN南郷5 外観と室内の様子

このような方々は、我慢に我慢を重ねるが故に、なかなか表面に現れず、むしろ水面下に隠れてしまっている側面があります。そんな方々に対して、どのようなアウトリーチを行えばいいのか、私たちは頭を悩ませていました。

ところが、各地の生活サポートセンターや医療法人社団等、協力機関・団体が広がるにつれて、最早「独居」ですらない高齢者の存在が、私たちの前に顕在化してきたのです。住んでいる市営住宅が取り壊しになる、長期入院中に帰る場所を失い、退院しても行くところがない、理由はそれぞれですが、第2事業の施設を見学させて欲しい、利用させて欲しいとの要請が後を絶ちません。そんな高齢者の現状を目の当たりにすると、愕然とせざるを得ません。やはりこれは、日本の社会全体が目背けること無く、しかも早急に手を打たなければならない問題だと、改めて痛感しています。

南郷5稼動から1年、介護サービスや在宅診療等、バックアップ体制も徐々に整ってきました。第1事業と同様に、私たちに出来ることには限度がありますが、個々人に寄り添い、再び孤立することのない環境作りを、今後も進めていきます。

どうかこの活動にご参加を！！

貧富の格差が拡大する世の中において、今日一日をどう生きればいいのか分からないという人たちが、日本中で、今この瞬間も苦しんでいます。そんな人たちがいる限り、この困窮者支援・自立支援活動を止めるわけにはいきません。

私たちは運営事業での収益を基本に活動していますが、より多くの人たちを支援するため、またこの活動を継続していくためにも、皆様のご協力が必要です。私たちの活動趣旨にご賛同いただける方からのご支援を、スタッフ一同、お待ちしております。

皆様からの暖かい援助は、生活困窮者の自立支援、居宅運営、病院通院、食事提供等、生活全般にわたるサポートに活用させていただきます。

皆様、いのちと自立を支える活動に、是非ご協力をお願い致します。

NPO法人 自立支援事業所 サンレジデンス
松下 和広

●ご送金先

北洋銀行 北24条支店 普通口座

口座番号 4232062

口座名 NPO法人 自立支援事業所
サンレジデンス

※なお、振り込み以外の方法や
物品によるご協力をご希望の
方は、下記番号にお問い合わせ
ください。

011-746-8889